

## マニュアルの確認と徹底について

レフェリーズ・マニュアル(ツー・パーソン・システム,スリー・パーソン・システム)の以下の点において,若干の混乱と不徹底が見受けられますので,次のように統一見解を通知いたします.

関係各位におかれましては,正しくすみやかな伝達,および確認と徹底をお願いいたします.

### 1. ツー・パーソン・システム

#### 7.4 ファウルのアとのスイッチ

ファウルの判定のアとは,両審判は,原則としてコート上の位置を交換する.

ただし,次の場合は,コート上の位置を交換しない.

1. リード・オフィシャルがオフェンシヴ・ファウルを宣したとき

ファウルを宣したリード・オフィシャルは,スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあとあらたにトレイル・オフィシャルになる.

トレイル・オフィシャルは,反対側のコートのエンド・ラインに入り,あらたにリード・オフィシャルになる.

2. トレイル・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣したとき(7.8.1,7.9.2参照)

ファウルを宣したトレイル・オフィシャルは,スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあと,引きつづきそのコートでトレイル・オフィシャルになる.

リード・オフィシャルは,引きつづきエンド・ラインでリード・オフィシャルの位置を維持する.

上記の「ファウルのアとのスイッチ」については,次のように確認し,徹底してください.

考え方:

審判がファウルを宣する可能性は,「リード・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣する場合」が多い.

したがって,ファウルを宣した審判が次に攻撃が行われるコートでリード・オフィシャルになってしまうと,同じチームのファウルをつづけて宣する可能性が高くなってしまう.

このような状況をなるべくつくりないようにするために,このメカニック・マニュアルが考えられたのである.

ファウルを宣し,スコアキーパーに伝達をした審判(レポーター・オフィシャル)は,伝達を終えたあとは,次に攻撃が行われるコートでのリード・オフィシャルにならないようにする.

フリースローを行う場合も同様とする.

## 2. スリー・パーソン・システム

### 8. チャージド・タイム・アウトと交代

#### 8.1 チャージド・タイム・アウト

1. チャージド・タイム・アウトの請求や交代の申し出があったときは、スコアキーパーはそれらが認められる時機に、合図器具を鳴らして審判に知らせる。  
「オフィシャルズ・テーブルにもっとも近いところにいる審判は、笛を鳴らし、チャージド・タイム・アウトあるいは交代の合図をする。」
2. チャージド・タイム・アウトを認めたときは、タイム・アウトを認めた審判がセンター・オフィシャルになり、その審判は、オポジット・サイドのセンター・サークルの外側で、オフィシャルズ・テーブルに向かってセンター・ラインをまたいで立つ。  
リード・オフィシャルあるいはトレイル・オフィシャルがタイム・アウトを認めた場合は、そのときセンター・オフィシャルであった審判がタイム・アウトを認めた審判と位置を交換してあらたにリード・オフィシャルあるいはトレイル・オフィシャルになる。  
あらたにリード・オフィシャルとトレイル・オフィシャルになった審判は、オポジット・サイドのフリースローの半円の外側で、フリースロー・ラインの延長線をまたいで立ち、それぞれのチーム・ベンチを見守る。

上記の「チャージド・タイム・アウトと交代」については、次のように確認し、徹底してください。

1. の「          」内について「オフィシャルズ・テーブルにもっとも近いところにいる審判」とは、「スコアキーパーにファウルを伝達した審判(レポーティング・オフィシャル)」以外の2人のうちの近いほうの審判のことを指している。  
したがって、ファウルを宣した審判は、ファウルを伝達したあとは、チャージド・タイム・アウトや交代の確認にはかかわらないで、すみやかにオポジット・サイドに移動しなければならない。
2. について「タイム・アウトを認めた審判がセンター・オフィシャルになる」ということが徹底されていないので、徹底すること。

以上